

情報連絡員報告総括表（令和4年1月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況			
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	
製 造 業	食料品		4		1	3		1	3			3	1		1	3		3	1		4			3	1		3	1
	繊維工業	1	1	1		3		1	2			3			3			2	1	1	2			2	1	1	1	1
	木材・木製品	1					1	1			1			1			1		1				1		1			
	紙・紙加工品			2		1	1		2			2			2			2			2		2					2
	印刷		1			1			1			1			1			1			1		1			1		
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	1		2		3			3			3		2	1		3			3			3			2	1	
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1		1		1		1		1		1			
	一般機器		2	1	2	1		1	1	1		3			2	1		3			2	1		1	2		3	
	電気機器			1			1		1			1			1			1			1		1					1
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1		1			1	
その他																												
小計	4	8	8	3	13	4	4	15	1	1	17	2	1	10	9		16	4	3	12	5	1	15	4	3	11	6	
非 製 造 業	卸売業		2			1	1	2			2			1	1		2						2			1	1	
	小売業	1	2	3		5	1	4	2		3	3		1	5		3	3					6			1	5	
	商店街		1				1				1			1			1						1			1		
	サービス業		4	1					5		5			4	1		4	1					4	1		4	1	
	建設業	1	2	1					4		1	3		1	3		1	3					4		1	2	1	
	運輸業		1						1			1				1		1					1			1		
	その他	1							1			1			1			1					1		1			
小計	3	12	5		6	3	6	14		1	16	3	1	11	8	1	15	4				19	1	2	10	8		
合計	7	20	13	3	19	7	10	29	1	2	33	5	2	21	17	1	31	8	3	12	5	1	34	5	5	21	14	

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年1月～令和4年1月)

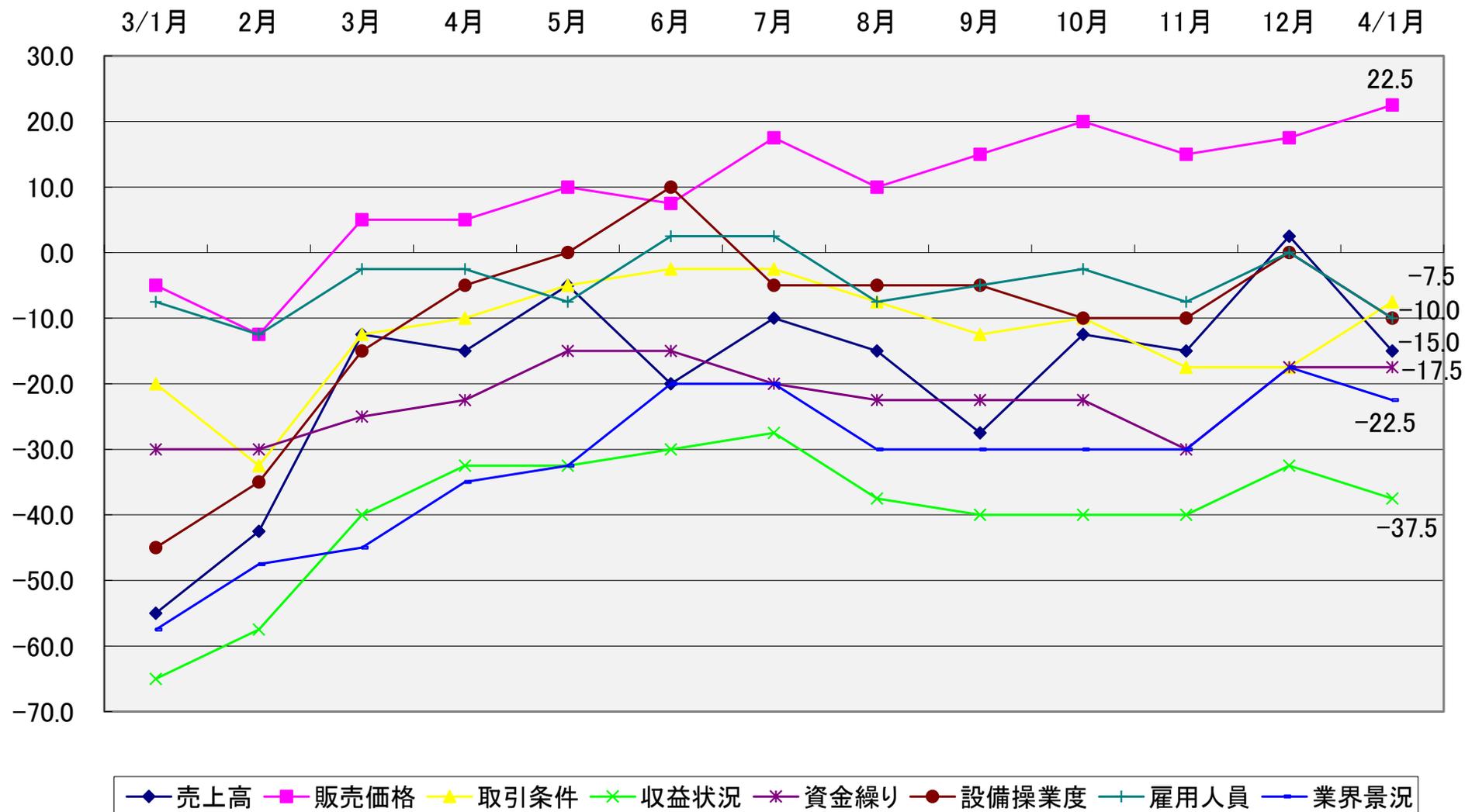
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	増減
売上高	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-17.5
販売価格	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	5.0
取引条件	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	10.0
収益状況	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-5.0
資金繰り	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	0.0
設備操業度	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-10.0
雇用人員	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-10.0
業界景況	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	原料用野菜は8月～9月にかけての長雨と日照不足の影響により生育不良となり、年末の漬物需要の増加にもかかわらず、原料生産が不足している。生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いている。一方、年末年始の需要の増加に対応するため、生産量を増やしている。また、今年も全日本漬物協同組合連合会主催の漬物グランプリ2022が開催され、会員に応募を促した。
	醤油味噌	原材料等がますます高騰している。醤油は値上げの環境となったが、味噌もようやく1社が値上げの発表をしたので、業界の値上げの環境は整っていくものと思われる。コロナ禍が再び勢いを増し、「まん延防止等重点措置」も発出され、再び業務用商品が落ち込むものと思われる。
	豆腐	回復しつつあった外食産業への食材としての納品が、コロナの第6波で減少傾向である。
	製麺	1月の中旬よりオミクロン株の感染者が増え続けている。21日よりまん延防止等重点措置が適用され、飲食店を始め、サービス業に大きな痛手になっている。組合活動も1月、2月はできないが、対策を打っていく。弊社では、2月より自販機販売を始めている。少しでも業界の活性化に繋がる仕組みを取り入れて、元気に発信していくつもりである。
繊維工業	組紐	売上高はやや増加傾向にあるが、メーカーにより偏りがある。材料のコストアップに伴い、販売価格は上がるが、収益には繋がらない。今後のコロナの動向に大きな不安がある。
	衣料縫製	外国人技能実習生の一日でも早い入国を期待している。
	テントシート	物価の上昇でどのような影響を今後受けるのか心配である。
木材・木製品	木材	ウッドショックによる影響は一時に比べ落ち着いてきた感はあるが、年初の初市から依然として、国産材に対する需要は旺盛で、前月比では横ばい傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値維持で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	新型コロナウイルス感染症第6波の影響で、各分野の需要が減少した。また、半導体不足、海外生産の部品不足で自動車産業や電機関係等も悪化。昨年対比で10%以上も生産量が落ち込んだと思われる。
	古紙	1月期の仕入れ量は：段ボール・約96±6%、新聞、チラシ・約85±15%、雑誌・雑がみを合わせて約84±6%と思われる。集荷量がマイナス傾向の中で前年度は前々年度から激減したが、本年は前年並みの組合員もいる。コロナ禍もインフルエンザ等と同じようになりつつある様に思う。製紙会社は原紙の販売価格値上げを2月から行うとの事で、製紙原料発注量は前年より増加し古紙輸出価格も高騰しており古紙の安定納入が望まれるところである。三重県もまん延防止等重点措置期間であるが、助成金等の活用は出来る事が少なく、もしもエッセンシャルワーカーの社員から感染者が出たら感染防止期間の7日は企業活動の致命傷になる。古紙の持ちり行為等はなくなり、廃金属の高騰等で多少減少した感であるがゴミの不法投棄は相変わらずで、中小零細企業経営者のストレスや不安は募り費用負担も累積され続けている。
印刷	印刷	年度末の繁忙期に向かうが、昨年同様で一昨年に比べての需要の減少は続いている。
窯業・土石製品	コンクリート	特に北勢地域での需要が多い状況が続いている。多少年度中盤の需要増の状況が落ち着いてきたように感じる。セメントの価格が上昇してきており、業界としても地域ごとに対応はバラバラであるが、値上げを検討している。
	伊賀焼	1月に入り少しずつお客様や体験に訪れる人が増えてきていたが、21日から排出されているまん延防止等重点措置により体験の方はほぼキャンセルとなり、観光に訪れるお客様が減ってしまった。少し業界としても明るさを取り戻せそうだったが、まだまだ油断できない状態となってきた。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は12月と同様増加傾向は続いた。自動車関連部品、電気関連部品、建築関連部品、ガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連部品はやや増加となった。1月に入ってからのコロナ感染者の急激な増加で技能実習生の入国が先送りされ、ベトナム島への定期便の開始もあり、入国者はゼロ、帰国者が若干あり、労働力不足が続いている。
	四日市	昨年末に比べ1月になって、半導体等の供給が復活し始め、自動車関連が持ち直しを見せ始めた。原油価格の上昇に伴い、諸物価の値上げ傾向が強まっているのが懸念される。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
一般機器	津市	コロナや半導体不足の影響もあると思うが、大企業の発言についても影響があるように思える。12月以降は挽回するということで中小企業に要請しながら、他国からの部品が届かず結果的に減産となり、その分、在庫増となっている。カンバン方式生産は自社にとってはメリットがあるかもしれないが、減産されるとつらい所である。自動車部品以外は落ち込みは見られない。	
	伊勢	「モノ不足」になってきて、売上に影響してきている。原因は「半導体不足」と言われる単なるIT機器の製造の遅れや品不足だけでなく、「原油価格の上昇」も「感染症による影響の拡大」も絡み合っていると考えられる。いろんなものに影響がでてきている。	
	電気機器	鳥羽	受発注は期末に入り、90%まで回復しているが、まだまだ厳しい状況である。主材料も高止まりである。
	輸送機器	鈴鹿	昨年からの部品供給不足の影響により、生産調整を続けている各自動車メーカーだが、挽回を始めたかと思ったらまた稼働を減らすなどの繰り返しで、下請けの末端企業ではそのしわ寄せをものに受けている。必要だというのが納期に間に合わせるべく残業やシフト変更で製品を用意しても、数日経つと計画変更で発注数がカットされる。人員も不足しているのか過剰なのかよくわからない状態で、生産現場の人員配置やシフト調整に苦労が続いている。
非製造	青果	野菜前半：年始から荷動きが鈍い状態が続いている。特に白菜、大根が安い。トマト、ミニトマト、キュウリも値下がり、赤ピーマン、ブロッコリーは気温低下の影響もあって値を上げた。 野菜後半：冷え込みの影響で入荷が少なくなっているが荷動きも悪く、白ネギ、白菜、大根、エノキ、生椎茸が安い。キャベツ、小松菜は生育が悪く値上がりしている。 果物前半：みかんは県内産、和歌山、愛知、静岡の収穫時期が終盤になり、青果品種が多くなっている。りんごは長野産から青森産が中心になり、小玉がお買い得である。いちごは入荷も価格も安定している。 果物後半：全体的に入荷量、価格とも安定している。デコポン、セトカ、イヨカン等の中晩柑が増えてきたが、みかんは、まだまだ根強い人気がある。いちごは入荷が少なくなっているが荷動きも悪く、値下がりしてきた。	
	自転車	年明け中旬にかけて通学車の展示予約会を開催するショップがあった。しかし、客足は昨年の3分の2程度となり、今後チェーン店、大型店へ流れるのではとの心配をしている。今年も新型コロナウイルスからの経済復調の中で部材調達から組立、輸出輸入、国内輸送等物流網の逼迫により商品の入荷がかなり遅れているものがある。2022年モデル工業メーカーの商品も100%中国生産となっているため、なお一層物流が不安定な状態が続いているのが現状である。1メーカー1部品の入荷が遅延となると、今年の入学に間に合わない可能性も残している。	
	小売業	電器	家電業界においてもオミクロン株の発生により、人の集まる事業（展示会などでの集客）やイベントへの参加や業務依頼が無くなり売り上げの減少が続いている。若干ではあるが、会社や企業向けの補助金政策のおかげで取引先へ空調機器や換気扇、空気清浄器が販売できたことで落ち込んだ売上をフォローすることができている販売店もあった。それと各メーカーの商品が半導体不足の影響でまだまだ品薄の状態が続いており、こちらの観点からも販売力の低下につながっている。
	石油	経済産業大臣は1月25日、ガソリンや灯油といった燃料価格の急騰抑制策を発表した。24日時点のレギュラーガソリン1L当たりの全国平均小売価格が170円20銭となり、ガソリン価格が政府による価格抑制策の発動条件を満たした。元売り事業者に対し、小売事業者への卸価格が改定される27日以降、170円からの超過20銭に、今週上昇が見込まれる原油価格3円20銭を加え、ガソリン、軽油、灯油、それぞれ1Lあたり3円40銭を支給することとなった。政府の抑制策は、ガソリンの全国平均小売価格が1L当たり170円以上になった場合、元売り業者らに最大5円分を補助する仕組みである。ただ、この抑制策は補正予算で今年3月までの制度となる。ガソリン価格が170円以上となるのは平成20年9月以来、13年4カ月ぶりとなる。燃料価格が高騰すれば消費が抑えられCO2の排出も少なくなるが、まだまだ国民生活には無くてはならない燃料である。どこまで価格高騰するのか、まことに皮肉な現実である。	
	スポーツ	オミクロン株の猛威にさらされて、また元の木阿弥である。特に中学生の大会がすべて中止、クラブの活動も制限されている。いつも冬はスポーツのオフで活動としては少ないけれど、2月になると来期の新生の制服やジャージの採寸が始まるため、少しは忙しくなると思い、組合員全員が用意に入っている状態である。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
業	商店街	熊野市 県にまん延防止重点措置が発令されていたが対象地域外ということで、今月開催の朝市イベントは予定通り開催された。ただ感染拡大に加え、天候にも恵まれない等も重なり、いつもより人出は少ない状況であった。ただ出店業者からはこんな状況でも買物に特化したこういったイベントはぜひ延期にせず従来通り開催してほしいといった要望があった。	
	サービス業	旅館	12月の実績から回復傾向にあって、全体では通常年の80%程度であった。年末年始も通常年くらいの賑わいであり、徐々に戻りつつあるものと予測していたところ、変異株の感染拡大によりまん延防止等重点措置が発出されたため、多くのキャンセルと新規予約も入らなくなり、休館している施設も多く出ていた。しかし、年始の実績が大きく貢献したため、1月全体では昨年の200%、通常年の50%程度の実績であった。
		測量	官庁からの受注量は、例年並みである。 新入社員確保に関して、また、新機材を導入するには先行きの見えない業種だけに難しい。
		警備	昨年のコロナのため年末年始の受注が減少しており、本年度も同じ年始のイベント警備の受注が全くなかった。
建設業	総合工事業	今年度の第3四半期までの国及び県発注工事のうち県内企業の受注実績の対前年度比は3%の減であった。国発注工事については約15%の減となった。これは、令和2年度補正予算を財源とする工事が3月に発注されたことによるものと考えられる。令和3年度補正予算については、国、県ともに議会決議を終えており、今年度も年度内の早期発注が期待される。しかしながら、その規模は昨年度の約8割であり、今年度第4四半期及び来年度の公共事業は、厳しい状況となると想定される。	
	内装工事業	1月も引き続き対前年同月比でプラスとなった。年度末に向け売上等の増加傾向がみられるが、コロナの影響がどうなるのか不確定な要因が考えられ、予測が難しい。	
	水道工事業 (亀山)	資材の入手がますます困難な状況が厳しくなっている。受注量は減少しているが、引き合い等は増加しているので業界として不安定な状況だと思う。まだまだコロナの収束が見えない中、不安定な状況が続くと思われる。	
運輸業	トラック	先月一旦下落に転じていた軽油価格が再び上昇し、全国のガソリン平均価格が170円を超えたため、政府による燃料油価格激変緩和対策が講じられ月末には再び下がることとなった。電子・デバイス関連については先月に引き続き増加したことに関連する輸送量が増加した。自動車関連についてはオミクロンウイルスの感染拡大により一部メーカーの工場の一部が稼働を中断したことに関連する輸送量も減少した。スーパー小売関連は減少に転じたことから関連する輸送量が減少した。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後の新規事業の補助金事業等を教えてください。今年もよろしくお願ひします。
一般機器	四日市	特には無いが、コロナ対策に注力を望む。休業補償等、金銭面での援助が望ましい。
サービス業	旅館	「宿泊4団体緊急要望」①融資条件の見直し (返済猶予・返済期間の延長・金利引き下げ) 及び柔軟な金融支援をされたい。②雇用調整助成金の特例措置の再延長。③新たな支援金の創設及び持続化給付金を含む各種支援金等の延長と拡充。④固定資産税免除の延長。⑤GO TOトラベルの事業が年度内に未執行となった予算は令和4年に執行できるようお願ひするとともに、令和4年度も同額の予算を確保されたい。
	測量	後継人を育てていきたい。われわれ中小企業への (三重県からの発注件数) を増やしてほしい。